



土岐市教育研究所
TEL 0572-54-1111 (内373)
FAX 0572-55-6310
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp
所報 No. 564
発行責任者 所長 河合 広映
発行日 令和4年 7月 15日
題 字 山田 恭正 教育長



『年少さんの思いと みつくすする すてきな姿』

撮影 泉西小学校附属幼稚園
栗木 美紀代 先生

一滴一滴が大河となる

土岐市教育研究所長 河合 広映

教育とは流水に文字を書くような果敢ない業である。だが、文字を巖壁に刻むような真剣さで取り組まねばならぬ。

偉人が残した言葉には力があります。言葉に生命があるような感じがします。こうした言葉を残す人たちは、その道に情熱を注ぎ、一心不乱にその道を突き進んできたという印象があります。森信三もその一人ではないでしょうか。「時を守り 場を清め 礼を正す」という言葉も残しています。生活の合言葉として大切にしている学校もあるそうです。こうした人たちが書いた文章や残した言葉を読むと、言葉を通して人としての凄みを感じます。それと同時に、自分のいい加減さを痛感してしまうのです。そこまで自分は真剣に子どもたちと向き合っていたのか。一時間一時間の授業に「文字を巖壁に刻むよう」な真剣さはあったのか。と振り返ると反省すべきことばかりです。私たちはなにかの見返りを求めて教育に携わっているわけではありません。でも、指導したことが少しでもその子のためになり、その子が少しずつ変わっていったり、指導をきっかけに昨日よりも今日、やる気が見えたりそれが行動に表れたりすると嬉しくなったりするものです。しかし、そんなことは多くはありません。ほとんど毎

日は「流水に文字を書く」ようなものです。果敢なさというか虚しさを味わった経験は誰にでもあるのではないのでしょうか。そういう時には、自分の指導力不足を恨んだものです。教育には即効性を期待してはいけないといわれます。時には、生活指導のように即効性を求める場合もあるのですが、もっと大きな意味での教育は特効薬ではなく、漢方のようなものだという人もいます。効くか効かぬかはわかりませんが、毎日、地道に続けていけば、ある時、ふと、「ああ、何か変わってきた気がする」と気づくもので、劇的に目に見えて変化がわかるものでもありません。

知識や技能も、また「〇〇力」のような力も、ずっとずっと後になって身につけてきたことに気づくものです。いや、ひょっとしたら気づかぬままというものもあるでしょう。「教育とは流水に文字を書くような果敢ない業である。」感覚的にはそうかもしれません。しかし、先生方の毎日毎日の業は、現実的には、「一滴一滴が大河になる」であり、確実に一滴分、子どもたちにしみ込んでおり、子どもたちの成長につながっているはずで、この一滴一滴が9年間の義務教育の中で、確実に子どもたちに蓄積され、体の中を流れる大河となっていくはずで、

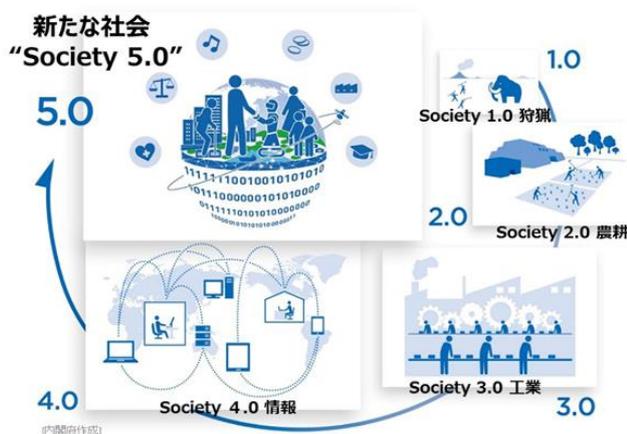
Society5.0 時代を生きる大人、それは今の幼稚園児たち

土岐市幼稚園・こども園長会 会長 古川 直利

1. Society5.0 を生きることになる子供たち

内閣府が提唱するソサイエティ 5.0、皆さん聞かれたことはありますか。簡単に言うと人間が獲物をとって生きることが精いっぱい狩猟社会が Society1.0、そこから農業、産業が発達し、現在は情報社会の Society4.0、幼稚園児が大人になって生きる未来社会が Society5.0 です。

Society 5.0 で実現する社会は、IoT (Internet of Things) で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服します。AI により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服される社会です。



～内閣府の HP より引用～

この時代を生きていく上で求められる力は

- ・ 文章や情報を正確に読み解き、対話する力
- ・ 科学的に思考・吟味し活用する力
- ・ 価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力

実はこの力は小中学校で求められる「3つの柱からなる資質・能力」につながり、それはさらに幼稚園の「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に見事につながっています。ただ違うのは学校では「学習」を通して力をつける、幼稚園では「遊び」を通して力をつけるだけのことです。

子供たちの10年、20年先を見つめると付けたい力は一緒です。このことを大人がみな理解し、目の前の子供たちに力を育むことをすれば相当効果的です。残念なことは大人が20年後をつなげて見えないこと、目の前の単発の姿だけで見ていることです。付けたい力をしっかりと知り、付ける方法を理解することです。

2. 幼稚園・保育園と小学校の違いとつなぎ方

幼保と小学校との接続が話題になっています。

「5歳の架け橋期」のつなぎ方です。

これを考えるには2つの問題があります。

一つは幼稚園と保育園は「遊び」を通して「育ててほしい10の姿」を育てていること。学校は遊びではなく、「学習」を通して育てていることです。一気に学習になるのです。

もう一つは、子供にとっての学習内容のギャップ。4月からひらがなを書き、練習を始めたと思ったら夏には一気に読書感想文を書く。この急な壁。個人差が大きい年齢の子にとってはできる子とできない子の差が大きいでしょう。多くの保護者はここに悩みを持っています。

子供が「遊び」から「学習」につなぐ方法をゆっくりと支援していくことが大切でしょう。

子供たちに付けたい力は幼稚園から小学校中学校高等学校大学まで一貫してつながっているのに、それを身に付ける「方法」が一気に変わることが子供にとっての壁、保護者にとっての心配事になっているのです。

3. 子供の「遊び」と「体験活動」と「学習」をmix

「遊び」、「体験活動」、「学習」をうまくミックスして子供たちに力をつけていくことを考えませんか。それほど難しいことではないでしょう。「学習的な遊び」、「体験的な学習」、「遊び的な学習」、いろいろあります。幼稚園も保育園も小学校も、子供目線に立って柔軟にミックスした方法で子供の学びの発展を支えましょう。



「また来たくなる学校」

と自信を持って言える生徒（教職員）へ



西陵中学校長
長瀬 教行

1 はじめに

全国中学校校長会が発行している「中学校」という雑誌の4月号で紹介していただいた「私の学校経営」の一部を紹介します。

2 学校の経営方針

(1) 学校教育目標

学校の教育目標は「自他を互いに尊び、自分たちで自分たちの生活をよくしていく力を育てる」という意味をもつ「自立自尊」です。

(2) 学校経営の基本方針（私の使命）

私は、令和2年度に新任校長として本校に赴任しました。初日、校長室の机の引き出しに『僕たちは「西陵中学校の生徒なら信頼できる」と思ってもらえるブランド力をつくりたい。生徒全員が自信と誇りがもてる学校を全員で作りに上げていきませんか。』という生徒会新聞が入っていました。このメッセージを見た瞬間に「生徒の思いや願いを実現する学校にすることが私の使命」であると決意しました。

3 教育の実践

(1) 生徒の思いや願いを大切にしたい学校経営

① 生徒会活動の充実

生徒会執行部は「優しく、温かくて、安心できる学校」にしたいと強く願っていました。執行部と懇談を行い、生徒と教職員の力を集め達成させようと約束しました。また生徒会活動も、本校が大切にしている三本柱（挨拶・掃除・合唱）の一点突破で、生徒に思いや願いを大切にしたい取り組みにしました。「本物は続く、続ければ本物になる。」毎朝の挨拶運動、無言清掃や地域清掃など、コロナ禍で制限があった合唱以外、継続してこだわった活動ができました。令和4年度は「また来たくなる学校」を合言葉に動き始めています。

② 人権教育と道徳教育の充実

毎月人権担当教員による人権に関わる話を全校放送で流したり、道徳推進教師を各学年に配置し、道徳教育の推進をめざしたりしました。道徳の授業の進め方や内容を話し合う姿も見られるようになりました。教師はペップトークでポジティブな考え方となるように心掛けています。コロナ禍でも、次の目標に気持ちを切り替え、前向きに取り組む生徒の姿がたくさん見られました。

(2) 幼保小学校や地域との連携

① 学力の向上の取組（西陵中校区連携）

昨年、研究主題「みんなができる。みんなのできるようにする西陵中校区の授業づくり」のもと研究実践発表をしました。内容は、小中学校が連携し、学力向上を目的として統一感のある学習規律や9か年を見通した指導と協働学習における授業研究です。現在も「校長・園長会」で、互いの学校や園の授業を参観し、相互の連携を図るための情報交流をしています。今年度も継続して互いの学校の研究会に参加して、授業や指導方法のよさを学び合うようにしています。小中合同の「学習デー」は継続して行っています。

② 地域との連携（学校運営協議会と学校地域協働活動）

本校には、地域貢献を願う生徒がたくさんいます。コロナ禍でも「私たちにできることはないか」を考え、ごみ拾い活動を定期的に行いました。

令和2年度に、学校運営協議会がスタートしました。学校と地域が互いにメリットとなる協働活動を計画しています。一年生が行う妻木城跡の登城では、学校運営協議会委員が「妻木城址の会」に声をかけ、ボランティアを募ってくれました。また、地元の若手実業家や委員を講師に迎え、ふるさとに対する思いや願いを語ってもらうことでキャリア教育やふるさと教育につなげています。昨年、地域と学校との連携が持続可能な仕組みとなるように地域学校協働活動推進員と熟議を始め校長が変わっても、地域と学校がつながる仕組みづくりを進めています。

4 終わりに

地域や幼保小と連携し、生徒（教職員）の思いや願いを大切にしたい学校経営を行っています。小中が連携することで、生徒指導における問題も少なくなり学校が落ち着きました。また、九か年の連携した指導が、子どもたちの主体性を育み、仲間と関わる協働学習が、仲間や自分を大切にしたいという気持ちを育てています。地域や校区の連携は、生徒の姿や学校を大きく変える可能性を秘めており「効果は無限」です。これからが新たな連携、協働の始まりであり、今後も大切にしていきたいと考えています。

学力向上推進委員会 今年度の実践の方向

学力向上推進リーダー 泉小学校 教頭 中村 勝

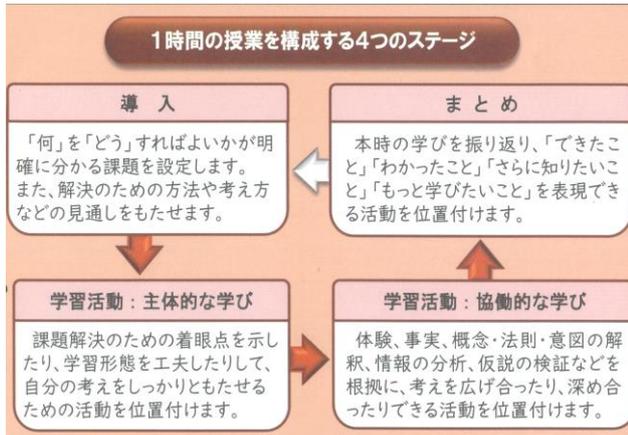
1 今年度の研究に向けて

コロナ禍の中、始まった令和4年度。今もなお未曾有の状況の中、「手洗い」「手指消毒」「マスク」等の徹底により、安全・安心な環境のもとで、生活を送ることができています。まさに「ウィズコロナ」です。

そのような中、子どもたちは日々「学び」を求めて、登校してきます。その学びを保障し、学力を付けるのが、私たち教師の仕事です。だからこそ、子どもたちの学びを止めてはいけません。

「令和の日本型学校教育」においては「①個別最適な学び」と「②協働的な学び」が重視され、それにより「主体的・対話的で深い学び」を具現していくことが求められています。その実現を目指し、目の前の子どもたちのことを考え、私たちは日々邁進していかなければなりません。

さて、上記の内容を受け、今年度の「土岐市スタンダード授業」は以下のようになっています。



上記4つのステージは

- 1 **導**入…課題化
- 2 **学**習活動①…追究(個)
- 3 **学**習活動②…追究(集団(ペア・グループ))
- 4 **ま**とめ…終末の振り返り

と言い換えることもできます。

そこで、まずは各ステージについて考えてみます。

2 研究を進める上での共通理解

①導入(=課題化)

子どもたちにとって「今日はどんなことを勉強するんだろう?」「前回の授業の振り返りで出た課題を今日は解決するぞっ!」という授業のスタートが大事。このような授業をスタートさせられるか否かで、その授業の良し悪しは決まってしまうといっても過言ではないと思います。

つまり、『ドキドキワクワク』する課題』を提示できるかです。課題を見た子どもたちが「やってみよう」となって授業が開始できたら、本時の「主体的な学び」につながるはずですが。

しかし、やりたいことをただ単にやっただけでは付きたい力が身に付きません。そのためにも、「教師のねらい」が必要となります。

子どもの実態から考えて、「何を望むか」「どのような活動を仕組みば、『やらされ感』ではなく、『やった感』のある授業になるのか」にこそ時間をかける必要があります。

つまり「子どもの願い=教師のねらい」が一致していることが重要です。

そうすれば、活発な話し合いが行われるのではないのでしょうか。

活発な話し合いは、話し合うことに必然性がないといけません。だからこそ明確な「発表すべき課題」が必要であり、それがあって初めて真剣な話し合いへとつながるのではないのでしょうか。

そして、それは個の実態把握や教材研究といった事前の準備がどれだけできるかにかかっているといます。

子どもたちの主体的な学びを生み出すためにも、今年度は『やってみよう』を生み出す具体的な課題』を1つ目の研究内容にしたいと考えます。

②学習活動(個の追究・集団の追究)

学習の深まりはまさにここ!です。

子どもたちの主体的な学びは「個別最適な学び」

（個の追究）と「協働的な学び」（集団の追究）をどのように計画し、どのように関連付けて、どのように実践していくのかにかかっているといても過言ではないでしょう。

しかし、各学校の研究や各教科、各先生方によってその取組内容や研究の進め方、指導方法は千差万別。ここは、先生方お一人お一人の指導力のにじみ出てくるところであるため、各学校の研究推進にその成果を委ねたいと思います。

③まとめ（終末の振り返り＝「できた」「分かった」の実感）

時間が来たから、「ハイ終わり。」では、本時、子どもたちが「できた」「分かった」を実感できたのかが分かりません。終末に子どもたちの「できた」「分かった」の実感のための振り返りが必要です。そのための時間の確保とその方法について考える必要があります。

課題が明確になっていれば、振り返る内容も明確であり、「できた」「分かった」を実感しやすくなります。これこそが、2つ目の研究として取り組みたい内容です。

上記をまとめると、右上の図のようになると思います。（図1）この図をもとに、土岐市「スタンダード授業」に基づいた今年度の重点を以下のようにしたいと考えます。

3 今年度の研究の重点

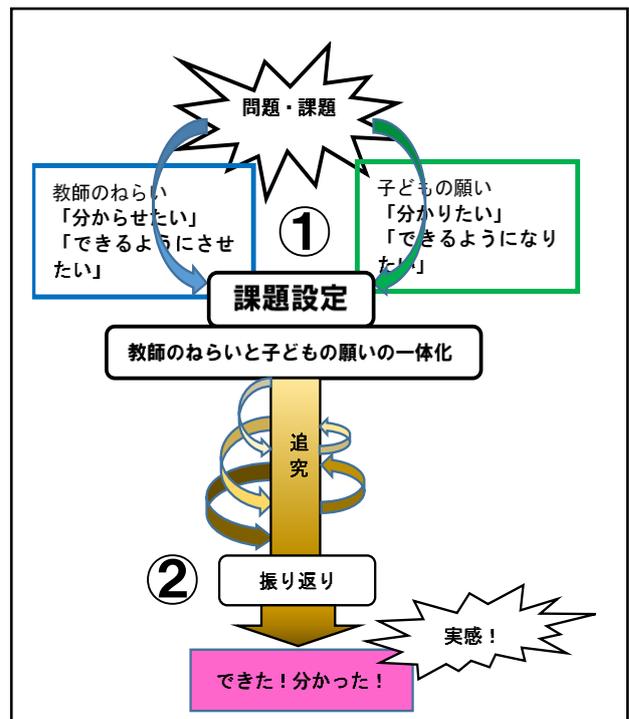
昨年度の研究は、

- ① 広がり・深まりのある終末の姿の具体化
- ② 「何を」「どう」すればよいか明確にわかる課題設定

でした。

土岐市「スタンダード授業」の流れから考えても、昨年度の研究内容である「課題化」と「振り返り」の継続は避けては通れないと思います。そこで、今年度の重点を昨年度の研究を踏まえ、

- ① 「やってみよう」を生み出す具体的な課題
- ② 「できた」「わかった」を実感する終末の振り返り



【(図1) 1 単位時間で目指す学習の流れ】

の2点としたいと思います。

研究を進める上で、重視しなければならないことは、学校が「子どもたちが安心して学べる場所」つまりは「心理的安全な場所」になっているかということです。そのためには、子どもたちが自己有用感を実感していなければなりません。そこで、研究の土台として、「安心して学べる」学級づくりについても考えていく必要性を感じます。先行研究からも、自己有用感を感じている子どもは、学力も総じて高いことが明らかになっています。学力向上と自己有用感高揚との関係性も明らかにしたいものです。

そこで、今年度の重点は以下のようになります。

- 「安心して学べる」学級づくり
 - 子どもたちの自己有用感高揚（心理的安全性の確保）→安心して「やってみよう」とする土台が醸成
 - ①「やってみよう」を生み出す具体的な課題 →主体的な学習
 - ②「できた」「わかった」を実感する終末の振り返り →学力の向上

この流れを今年度の重点として、研究を進めていきたいと思っています。

附属幼稚園・こども園・小中学校 新規採用職員紹介

今年度、土岐市に着任した新規採用の先生は13名です。初任者研修に加えて、園や学校の同僚性も先生方の教員としての力を伸ばしていきます。新規採用の先生方へのサポートをよろしくをお願いします！

(敬称略)



◆妻木小附属幼稚園◆ 後藤 愛実 先生

未熟ではありますが、先輩の先生方から保育について学ばせていただいたり、子供たちから明るいパワーをもらったりして、充実した日々を送ることができています。今後も、子供一人一人と向き合い、気持ちに寄り添う保育ができるように、笑顔を忘れず努力していきたいです。よろしくお願いします。



◆西部こども園◆ 佐藤 舞 先生

私は今、多くのことを学びながら子どもたちの前に立っています。

今はまだ、できないことやわからないことが多いまま、子どもの前に立たなければならないです。しかし、何事にも挑戦していかなければならないです。そのため、向上心を持ち、学びながら少しずつできることを増やそうと思います。



◆西部こども園◆ 加藤 菜保美 先生

子どもが安心して園生活を楽しいと思うことが出来るように関わっています。

私自身、初めての担任で不安もあります。しかし、子どもたちから興味をもって遊ぶことが出来たり笑顔で教室に入り過ごせたり出来るように、気持ちを受け止め寄り添うようにしています。また、褒めて自信が付くように心がけています。



◆土岐津小学校◆ 岡村 律子 先生

春になると庭の柚子の木にアゲハ蝶が卵を産みます。

今年は、クラスの子どもたちと一緒に育てています。

毎日幼虫の様子を見て、変化を楽しみにしている子どもの笑顔が、私の原動力になっています。子ども達が笑顔で過ごせ、「できた・わかった」と喜びを感じられるよう、日々研鑽を積んでいきます。



◆妻木小学校◆ 竹澤 弘一郎 先生

今年度から妻木小学校に赴任し、子どもたちと毎日過ごせることに幸せを感じています。これまでの教職経験の中で、学ぶことは元々楽しいことであり、子どもたちは元々学びたがりな存在であるということを感じました。学ぶ楽しさと子どもたちの「学びたい」を大切にして、子どもたちと一緒に学びたいと思います。



◆妻木小学校◆ 鈴木 紘乃 先生

昨年大学を卒業し、初めて先生となり、毎日緊張と楽しさが混ざりながら養護教諭として過ごしています。

日々、子どもたちが安心して過ごしていけるように、子どもからも保護者の方からも教職員の方からも信頼される養護教諭を目指します。子どもの命を守り切る養護教諭になれるよう努めていきます。



◆濃南小学校◆ 宮下 蒼 先生

子どもたちに「理科が楽しい」「理科が面白い」と思ってもらいたいという想いで、教壇に立っています。理科の学習を、ただ勉強だと思うのではなく、日常生活に潜んでいる様々な不思議を解き明かす鍵だと思ってもらいたいと考えています。そのために、子どもが興味をもてるような「物」の提示の仕方を考えていきたいです。



◆濃南小学校◆

岩崎 礼佳 先生

子ども達の成長を見届けられることに魅力を感じ、教員になりました。新しい生活に不安もありましたが、濃南小・中学校の子どもたちの明るく元気な姿や、温かい先生方に支えられながら、日々の生活を送っています。上手いかないことありますが、経験を積み重ねながら、子どもたちに寄り添える養護教諭を目指します。

**◆駄知小学校◆**

三戸 美穂 先生

4月から駄知小学校に赴任し、初任者として毎日奮闘しています。笑顔と元気いっぱいの子ども達、優しく指導して下さる先生方、地域の方々も温かい駄知小学校で学ばせて頂けることに感謝です。子ども達の「できた」を一緒に喜び、思いを受け止め、寄り添える教師を目指し、努力を重ねていきたいです。

**◆肥田小学校◆**

可兒 美緒 先生

2年間の講師経験を経て、今年度より肥田小学校に赴任し、2年生の担任しております。「元気に登校、笑顔で下校」をモットーに、子どもたちが毎日安心して過ごせるクラスを作っていきます。そのために、子どもたちの声に耳を傾け、寄り添い、よいところを伸ばしてあげられる教師になりたいです。

**◆泉小学校◆**

仙石 健太 先生

4年間東京都の小学校で勤め、講師時代にお世話になった泉小学校に戻ってきました。当時いただいたご指導が私の血肉になっています。再び土岐市の先生方からご指導いただくことで力を付け、それを子どもたちへの指導へ生かしていきます。パワフルな6年生をより伸ばして卒業させられるよう、努力します。

**◆泉西小学校◆**

足立 結以 先生

児童たちの成長のはやさに驚きつつも、成長を間近で見られることに嬉しさとやりがいを感じる毎日です。その中で、私は、児童の気持ちに寄り添っていくことを大切にしています。児童のために、「何ができるのか」をよく考え、児童が、「できた」、「わかった」とたくさんの喜びや感動を味わえるように指導していこうという気持ちでいっぱいです。

**◆土岐津中学校◆**

武田 勇輝 先生

教員になって3か月になりました。楽しいことももちろんありますが、授業で失敗したり、生徒に思いを伝えきれなかったり、上手いかないことがほとんどです。そのような時でも、いつも元気で、パワフルな生徒に力をもらっています。生徒のために一つでも多くのことが出来るように、全力で楽しんでいきます！

**土岐市初任者研修****【研修Ⅰ】** 7月21日(木)

「救急救命研修」(該当者)

- ・救急救命に関する知識・技能や応急手当の仕方を学ぶ。

【研修Ⅱ】 8月18日(木)

「地域理解に関する研修」

- ・美濃焼等に関わる土岐市の施設において体験的な研修を行う。

【研修Ⅲ】 12月6日(火)

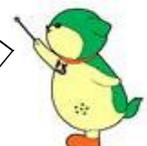
「校種間連携に関する研修」

- ・保育園、幼稚園にて、保育士、幼稚園教諭の体験的な研修を行う。

【教職員資質向上サポート事業】

主に経験年数が少ない先生方を対象としている本事業において、今年度は「授業の腕を上げる法則」(学芸みらい社)の輪講を通じた研修も行っています。土岐市の教育に関わりある岐阜聖徳大の玉置先生も校長時代にこの書籍を用いて若手指導を行ってみたいそうです。現在、研修中の方には、授業で生かされることを期待します。

関心のある方は、研究所までお問い合わせください。





「お世話になる先生、お手数をかける先生、それは有り難い先生である。しかし有り難い先生よりも、もっとほしいのはうれしい先生である。そのうれしい先生はその時々のもちこに共感してくれる先生である。」

幼児教育の父とも呼ばれる倉橋惣三先生の言葉が時代を超えても色あせず心に響きます。

なんとかしたいというこちらの思いが先走り「どうしたの?」「〇〇したいの?」とあれこれと必要以上に声をかけたり、いろいろと手を出したりすることがあります。また“上手くできているのか、そうでないのか”という行動に目を向けて評価をすることがあります。そんな時、私は子どものもちこに触れることができたのだろう

か・・・見落としてなかったのだろうか・・・と振り返りハッとします。

本当に子どもが求めているのは、その時のその気持ちにそっと触れ共に感じてくれる先生なのでしょう。一人一人がかけがえのない存在であり、心を寄せて内面を理解する保育の原点を忘れてはいけなないと気付かされます。

入園し保護者から離れて初めて出会う私達大人が、自分を大切な存在として受け止めてくれることを感じ、その安心感の中で温かいまなざしを受け「自分っていいな」と思い、その子らしさを發揮して世界を広げていけるように、子どもの傍らにいて共に感じる『うれしい先生』でありたいと思います。

掲 示 板

令和4年度 東濃地区教育推進協議会教育実践研究奨励賞 「実践記録、教材、教具の部」の募集について

【応募資格】

- 東濃教育事務所管内の教職員「校長、教頭、教諭（講師、養護助教諭等を含む）、養護教諭、事務職員、栄養教諭・学校栄養職員」

【応募方法】

- 前年度及び該当年度に作成または使用したもので、未発表のものを応募する。

【応募方法】

- 小学校の部 10月21日（金） ※小中共に、学校単位で「出品一覧」を教育研究所に
- 中学校の部 10月 7日（金） メールで提出する。

【展示・審査】

- 東教推研究発表会・実践交流会で展示、審査する。
小学校：11月22日（火） 中津川市立南小学校
中学校：11月 8日（火） 土岐市立泉中学校

多くの先生の応募を、お待ちしております！



【お詫びと訂正】前号No.563号において間違いがありました。お詫びを申し上げ、以下のとおりに訂正いたします。

◇P1 右段「垣間見ることができました。」→（訂正）「垣間見ることができました。」

◇P8 掲示板「副主幹 板倉みゆき」→（訂正）「指導主事 板倉みゆき」

編集 後記

濃南小中一貫教育(併設型)について紹介をしました。(特集 P1. 2)校種間のスムーズな接続が図られています。折しも本号では、幼稚園・こども園会長さん(P2)、巻頭写真(P1)と心にひびく言葉(P8)を就学前の先生方に担当していただきました。「保・幼・こ園と小学校文化」の差異も理解して、どの子ども生き生きと学校生活を送られるよう支援したいものです。日々の地道な実践が子供を高めていきます。(P1. 4. 5) 校長先生の学校経営への考え(P3)、初任の先生の日々の思い(P6. 7)、どちらも子供の成長を願うことは同じです。

濃南はひとつ

～新しい学校のスタイルへのチャレンジ～

濃南小・中学校

1 はじめに

濃南小学校は、平成27年4月に濃南中学校に隣接する小学校としてスタートしました。以来、指導内容や指導方法等小・中学校が連携した教育活動を積極的に進め、令和2年4月からは土岐市学校管理規則でも、一貫教育を進める学校として位置づけ、その取り組みを一層加速しています。

2 「小学校文化」「中学校文化」

小学校と中学校の教育活動の間には、法令や学習指導要領等に規定されている事柄に加え、6-3制の義務教育の歴史の中で積み上げられてきた文化の違いがあります。小学校では日常生活に基づいた具体的な指導を大切にすることに対し、中学校では自己の考えを構築する抽象度のある指導に力点が置かれたり、生徒指導では規則に基づいた指導が大切にされたりしています。そして、これらの差異をマイナスにとらえるのではなく、一人ひとりの子どもの育ちとしてとらえ、9年間をどう紡いでいくとよいかを考え実践できるのが一貫教育です。

3 職員室はひとつ

そこで、小・中の文化を認め合う教育活動を進めるには、職員間のコミュニケーションが大切になります。これまで小学校の職員室であった場所に、中学校の職員机を並べ、お互いの顔を見合わせながら業務ができる時間と空間を創り出しました。



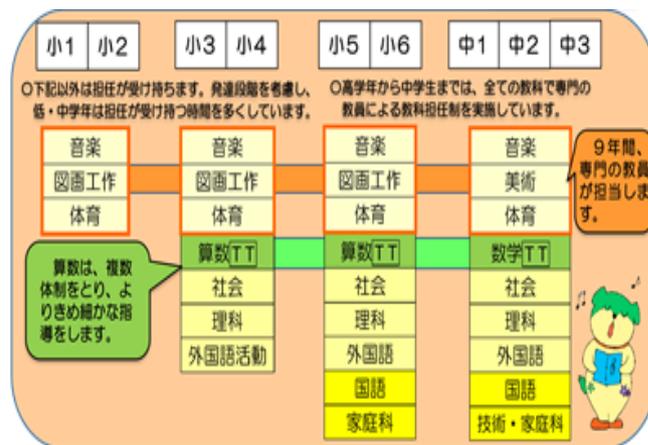
4 分掌はひとつ

また、濃南小・中学校では独立した学校としてそれぞれの学校で分掌を担当していました。そこで、9か

年の見通しのある指導や、中学校卒業時に身に付けたい資質・能力を明らかにするために、小・中学校で各担当を配置するものの、正副を設けた組織運営を進めています。出張も場合によっては1人とし、働き方改革にもつながっています。

5 小学校低学年からの教科担任制

教科の授業を充実させるために、兼務の発令をし、小・中の授業を誰もが担当できるようにしています。これまで中学校では避けて通れない免許外の授業担当が解消され、全て専門教科の先生で担当できるようになっています。また、小学校の先生も必ず中学校の教科等を担当する仕組ができ、小・中の相互の乗り入れでの指導ができています。合わせて、小学校1年生から部分的な教科担任制ができ、これからの教育の一方策として取り組んでいます。



6 活動を共にする

児童生徒の活動も小・中で一緒にできることを計画し、実践しています。5年生以上での児童生徒会の運営や、中学生による小学校での読み聞かせなど、学年の区切りをフレキシブルに考え、効果的な集団で進めています。

中学校の卒業式に別れを惜しみながらも笑顔で手を振る小学生の姿は、濃南ならではの光景です。



ふるさとを愛し大切に**濃南小・中学校**
小中一貫教育（併設型）

1 小・中全員での活動

●小1～中3まで、学年の枠を超えて児童生徒が一緒に活動する時間です。

①異学年交流活動

- ・中学生による読み聞かせ コラボ活動
- ・昼休み縦割りレク活動 ☆縦割り活動

②児童会・生徒会協力活動

③小・中合同集会

④小・中合同行事



3 9年間つながった学び

●濃南の子としての学びを確立し、将来を生き抜く確かな学力を身につける指導です。

①9ヵ年を見通した指導

- ・☆つながりがわかる各教科の指導計画
- ・発達の段階に応じた学び方の指導

②育てたい資質や能力の共有化をめざす小・中合同研究会

③豊かな心を育む継続的な指導

- ・全校道徳、ブロック道徳の実施
- ・全校あったかい言葉がけ運動



少人数・小規模をつつむ一貫型小・中学校として
 そのメリットを生かす学校教育の推進

☆印は R4新規取組

学校の教育目標 **仁・智・勇**

◆濃南の職員として

- 新しいスタイルの学校を創造する意識
- 小・中違いのある文化を融和する取組
- 一つの仲間である高き誇り



一貫教育推進基本コンセプト

I 教育の質の向上

義務教育9年間の学習内容のつながりや定着を大切に、児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の充実を図ります。

II 人とのかかわりを大切に活動

児童生徒間、教職員や地域の方と児童生徒の関わりを積極的に行い、豊かな人間性や社会性を育てます。

地域とともにある学校づくり

保護者、地域の方と目指す子ども像を共有し、地域の学校としてともに歩む教育活動を展開します。

2 全職員で育てる

●全ての児童生徒にかかわり、濃南の子一人一人を大切に先生です。

①小・中共有職員室による日常情報交換

②☆小学校全学年教科担任制の実施

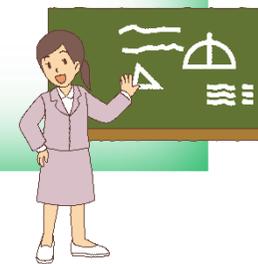
- ・低学年3教科 中学年7教科 高学年全教科

③小・中乗り入れ授業

④☆担任交流週間

⑤中部活への小教員の参加

⑥校務分掌の小・中一元化



◆濃南オリジナル

- ◎小規模特任校制度
- ◎☆ALTの全時間配置
- ◎☆全学年教科担任制
- ◎支援員全学級配置（小）
- ◎☆チーム担任制
- ◎ふるさと体験活動
- ◎副校長制度
- ◎☆小・中2学期制

◆重点とする活動

- ◎安心・安全な学校（いじめ・コロナ等）
- ◎ICT教育（タブレット）
- ◎働き方改革

4 地域と一体となった活動

●濃南の将来を担う大切な一人として、地域ぐるみで育てる笑顔のある活動です。

①PTA組織・学校運営協議会の一本化

②☆地域合同運動会（仮称 ふれあい運動会）の実施

③地域の方を講師とした学習

- ・細野城址 中馬街道ボランティア
- ・ふるさと体験活動

④☆公開青少年育成町民会議

